

白藍塾オリジナル

2014入試小論文分析&解答のヒント

2014年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志

●慶応・文学部

課題文は「異邦人」について考えをめぐらした文章。少し入り組んでいるが、難しい文章ではない。カミュの小説『異邦人』と、外国で異邦人として生活して優れた作品を生み出す作家や芸術家を比較して、その共通点について語っている。簡単にまとめると、こうなる。「カミュの『異邦人』は、真実を貫こうとすると群れの中で疎外されて異邦人のように生きるしかなくなったムルソーという主人公を描いている。だが、ムルソーのような生き方をしても絶望せずに活動すれば、生きる力を獲得する。突然難病にかかると、まるで言葉の通じない世界に投げ出されて異邦人になった気分になるが、そのような人も、絶望せずに活動することでそれまでの自分にはない自分が見え、そこに新しい言葉が生まれる」。

つまり、筆者は「異邦人」を、外国に行ったり、人生の激変などが起こったために、それまでの自分になじんだものから引き離されて疎外感を味わう存在としてとらえている。そして、そのような「異邦人」になってこそ、新しい自分を作り、生きる力を発見して、新しい作品を生み出すことができると語っている。

問1は、この文章で論じられている「異邦人」についてまとめることが求められている。以上述べたことを説明すればよい。問2は、「異邦人」とはどのような存在か、この文章を踏まえて考えを述べるのが求められている。もちろん、「異邦人」を筆者が言うような存在であると考えるかどうかを答えればよい。

イエスで答える場合には、課題文の主張に補足説明をする形をとる。芸術作品は、新しい世界の見方を示すものであって、日常を生きるのではなく、それに疑いを持ち、まさしく異邦人の目で世界を見つめてこそ生み出されるものであることを説明することができる。ノーで答える場合には、「異邦人とは、自分のアイデンティティを失い、しっかりと生きているという感覚を持ってなくなることである。新しい生きる力を生み出すためには、たとえ一度そのような体験をしても、生きている感覚を獲得する必要がある」などの論が可能だ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <http://www.hakuranjuku.co.jp>